しんぶん赤旗　２０１５年６月９日（火曜日）

新しい大阪へ

さらば維新政治

元大阪城天守閣館長　渡辺武さん

文化充実が生活豊かに

大阪市の存続を決めた住民投票の結果は、市民の良識と、それを呼び起こした多くの団体・個人の勝利です。

同時に、大阪市の現状に閉塞（へいそく）感を抱き、維新の「改革」に期待して「賛成」を投じた69万人余の願いにどう応えるのかも突きつけられています。

そのための本当の改革の基本は、「住民の福祉向上に努める」という地方自治体最大の任務にどれだけ忠実になるかです。

腕振るう分野

橋下徹大阪市長はこれまで、新自由主義的な方針の下、次々と住民サービスや文化施策を削ってきました。「もうからないところは切れ」というやり方では、市民のいのちと暮らしは全部削られてしまいます。

必要性は高いがもうかりにくい、福祉・文化・教育・スポーツといった分野にこそ、行政が腕を振るう余地があり、それらが充実してこそ、市民の豊かな生活があります。

住民投票後、大阪市は、市民から寄付を募り文化・芸術団体への助成金にあてる制度を始めました。市長は「国民の寄付で文化を支えるのが原理原則だ」と言ったそうですが、とんでもないことです。

大阪には「八百八橋」に代表されるように、江戸時代から近代まで、市民が寄付をして文化施設や公共施設を建て、環境を整えてきた先進的な経験があります。しかしそれは、「お上がやらないなら自分たちが」という大阪の町人・市民の意地とプライドによるもので、市民が勝手にやるから国や自治体はお金を出さなくていいということとは全く違います。

改革の出発点

今回の結果は、大阪の民主主義の成長の証しでもあります。２０１３年の堺市長選を機に、維新の横暴、強権政治を許さない共同が発展しました。それは、議論を尽くして一致点を見いだし、きちんとした政策をつくりあげるという、民主主義を基礎からやり直す道のりでした。

今、私たちは維新政治を乗り越え、新しい大阪に向けた本当の改革のスタート地点にいます。維新以前の「反共オール与党体制」に戻ることは歴史が許しません。知事・市長ダブル選挙と参院選を控えるこれからの1年が、民主主義の成長を本物にし、住民が主人公の民主的な社会を実現する上で、歴史的な年になるでしょう。

（聞き手　前田美咲）